



開会式での沖次長祝辞



森林クラフト体験で賑わう東京事務所ブース

この、ふれあい展には、東京都木材団体連合会、東京木材問屋協同組合、東京都森林組合連合会など木材・林業関係の21団体が参加し、木工教室、木製品の展示、苗木配布会、木製品の販売などが行われました。

東京事務所も、木の輪切りホルダー作り・木の実リース作りなどの森林クラフト体験とパンフレットの配布等を行い、木材・森林・林業等について情報発信を行いました。天候にも恵まれ2日間で、昨年より5千人多い、6万5千人の方に来場いただきました。

## 第36回 木と暮らしのふれあい展

森を育てたい。だから木を使おう

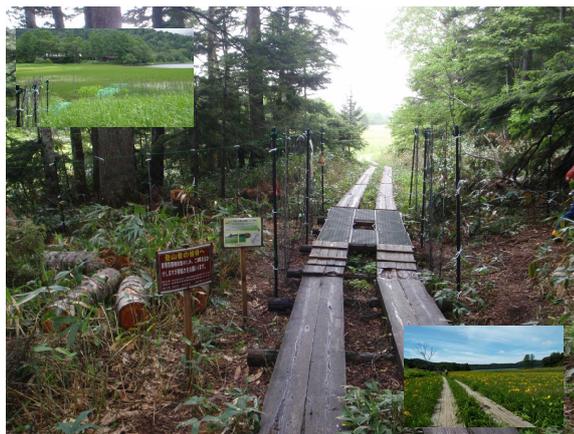
東京事務所

東京都民の方に木と触れあえる機会を提供し、木に対する理解を深め、木材が循環資源として優れた素材であることや木材の利用が森林の育成に深くかかわっていることなどを理解していただき、木材の需要拡大を図ることを目的とした「第36回 木

と暮らしのふれあい展」(主催…東京都・(一社)都木連、協賛…関東森林管理局東京事務所等)が、10月22日(土)・23日(日)の2日間、江東区の木場公園において開催されました。

## 今月の表紙

### 「大江湿原獣害対策事業」



写真の場所は、尾瀬国立公園でもある尾瀬沼の東に広がる大江湿原を取り囲む福島県檜枝岐村の尾瀬岳国有林です。ニホンジカによる被害が各地で広がる中、大江湿原においても植生被害が増加し、森林生態系への影響だけでなく、ニッコウキスゲなどの減少による観光面への打撃からも、湿地を囲むように約3・5kmに高さ2mの金網柵を設置しニホンジカの侵入を防ぐ事業を行っています。

平成27年度には、水際からのシカ侵入に対して水面にネットを浮かべるなど改良を図りました。また、南会津尾瀬ニホンジカ協議会によるシカ柵巡視や、わな設置等の活動と連携し、ニホンジカによる食害防止に成果をあげています。